第11话《幸子 故意的》

[真一看到娜娜在敲鼓，这里第一次提到了真一的家庭状况]

シン：かっこいい！

ナナ：シン！来てたのかよ～

シン：すげーや、ナナさんドラムを敲けるの？

ナナ：敲けねえよ～

シン：敲いてたじゃん！

ナナ：これだけしかできねえもん。

シン：でも、うまいよ！いつ覚えたの？

ナナ：地元でバンドをやってた時、遊びで教えてもらいたんだ～

シン：ヤスさんに？

ナナ：何で知ってんのよヤスのこと？

シン：だって，ノブさん酒飲むといつもヤスさんの話するもん。昨日の晩もさんざん言ってだ、「ヤスさんがいればな」って。

ナナ：あんたまだノブのとこるあったの？その服ノブのだろう？

シン：ノブさん今バイト行ってるから、ちょっと遅れて来るかもって。

ナナ：シン、偶には家帰りなよ、親が心配してんじゃないの？

シン：しってないよ。

ナナ：そう、じゃっいいか～

シン：ナナさんって変わってるね、普通はみんな「そんなことない、心配してるに決まってる」って言うのに…

ナナ：だって、子供を捨てる親は現実にいるんじゃない…

真一：好酷！

娜娜：真，你来了啊。

真一：娜娜好厉害，还会敲鼓！

娜娜：不会敲。

真一：不是在敲嘛！

娜娜：只会这一点而已。

真一：不过很厉害啊，什么时候学的？

娜娜：在老家组乐队的时候，学着玩的。

真一：泰教的？

娜娜：你为什么会知道泰？

真一：因为伸夫一喝酒就会说起泰。昨晚又说了一大堆“如果泰在的话…”之类的。

娜娜：你还和伸夫住在一起啊？那身衣服是伸夫的吧？

真一：伸夫现在在打工，他说可能迟一会儿到。

娜娜：真一，偶尔回趟家吧，你爸妈会担心的。

真一：不会。

娜娜：是吗，那也行。

真一：娜娜很奇怪呢，别人通常会说“不可能，肯定会担心”之类的。

娜娜：可是现实中确实存在啊，将孩子抛弃的父母…

[章司沦陷= =]

幸子：ごめん、章司、先行って！終電出ちゃう！

章司：おい！……走らないと終電のがすのわっかてて、何でそういう靴履くかな？

幸子：わざとだよ～

幸子：对不起，章司，你先走吧！末班车快开了！

章司：喂！……明明知道不跑的话会赶不上末班车，为什么还穿这样的鞋子啊？

幸子：是故意的哦~

[一起回来的娜娜和奈奈，看到了等在707门口的泰~]

ナナ：あたしに故郷なんかない。

奈々：何それ？かっこつけちゃって、自分ばかり～

……

ナナ：ヤス、BLASTはあんたがつくったバンドだろう？

ヤス：ああ、心配で夜も眠れねえ…弁護士事務所なら東京にもあるしな～

奈々独白：ねえ、ナナ～ナナは今でも自分の故郷がどこにもないと思ってる？あの窓辺の食卓も椅子も、あの頃のまま、あの場所にあるよ～

娜娜：我没有所谓的故乡。

奈奈：什么啊，扮什么酷呢，自说自话。

……（看到泰了，扔下菜，冲过去，扑~）

娜娜：泰，BLAST是……你组建的乐队啊！

泰：嗯，担心的晚上都睡不着觉，律师事务所的话，东京也有。

奈奈独白：娜娜，娜娜现在还认为哪里都不是自己的故乡吗？窗边的桌子和椅子，至今仍然摆放在那里，保存着当时的模样哦~